PROFILE

ご案内



一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION

ご挨拶



強みを磨き、新しい強みを創る

2026年10月に、中部経済連合会の会長に就任いたしました。歴代会長が築いてこられた歩みを受け継ぎ、中部圏のさらなる発展に向け、重責を果たしてまいります。

豊かな中部から、挑戦する中部へ

中部は強いです。自動車、航空宇宙、工作機械など世界に誇る産業が集積し、中部5県の製造品出荷額は全国の約3割を占め、ものづくりで日本経済を力強く牽引してきました。

そして住みやすいです。道路・鉄道・空港等交通の利便性に加え、比較的ゆとりある住環境や通勤のしやすさ、豊かな自然など、生活面でも多くの魅力を有しています。

「働きやすさ」と「暮らしやすさ」を兼ね備えていることが中部の大きな強みです。

一方、恵まれているからこそ、今の豊かさに安住してはいけません。人口減少、DX・AI、GX、地政学リスクなど、経営環境が大きく変化する今、中部がさらに飛躍できるかどうかの「分水嶺」に立っています。

「守りから挑戦へ」「蓄えから投資へ」

日本企業はバブル崩壊後、投資や賃上げに慎重となり、「守り」を優先してきました。しかし今、政府も戦略分野への成長投資を進めるなど、潮目は変わりつつあります。

中部もこの流れをチャンスと捉え、ものづくりの力をDX・AIでさらに磨き、次世代モビリティ、半導体、航空宇宙、ロボット、GX、スタートアップなど、新たな成長分野を育てることが重要です。企業、大学、行政など産学官金の力を結び、新しい技術や事業を生み出し、社会実装につなげていきます。

何より重要なのは「人への投資」

人はコストではなく、企業と地域の未来をつくる最大の資産です。

DX・AIやロボットの活用を通じ生産性を高める一方、人はより創造的で付加価値の高い仕事を担う。デジタル・AI人材の育成やリスキリング、賃上げ、柔軟な働き方を進め、若者、女性、シニア、外国人など、多様な人材から選ばれ、能力を十分に発揮できる地域を目指します。

中部5県の力を結集し、挑戦を生み出す中経連へ

中経連は、5県を一つの広域経済圏として捉え、それぞれの強みを持ち寄り、世界と競争できる強い中部をつくります。

そして地域や会員の声を国への政策提言につなげるとともに、産学官金をつなぐ「プラットフォーム」となり、新たな挑戦や社会実装を後押ししてまいります。

会員の皆様とともに、「中部を強く、日本を強く」。
挑戦する中部、世界で競い、日本の成長を牽引する中部をつくっていきましょう。

2026年10月

一般社団法人中部経済連合会

会　長　柘植康英

中経連とは

名　　称

一般社団法人中部経済連合会
英文：Central Japan Economic Federation
略称：中経連

創　　立

１９５１年（昭和２６年）４月２日

会　　員

主として中部圏において経済活動を展開している企業・学校法人・経済団体など約８００者（約4分の1が製造業）

活動エリア

長野・岐阜・静岡・愛知・三重の中部５県

創立の経緯

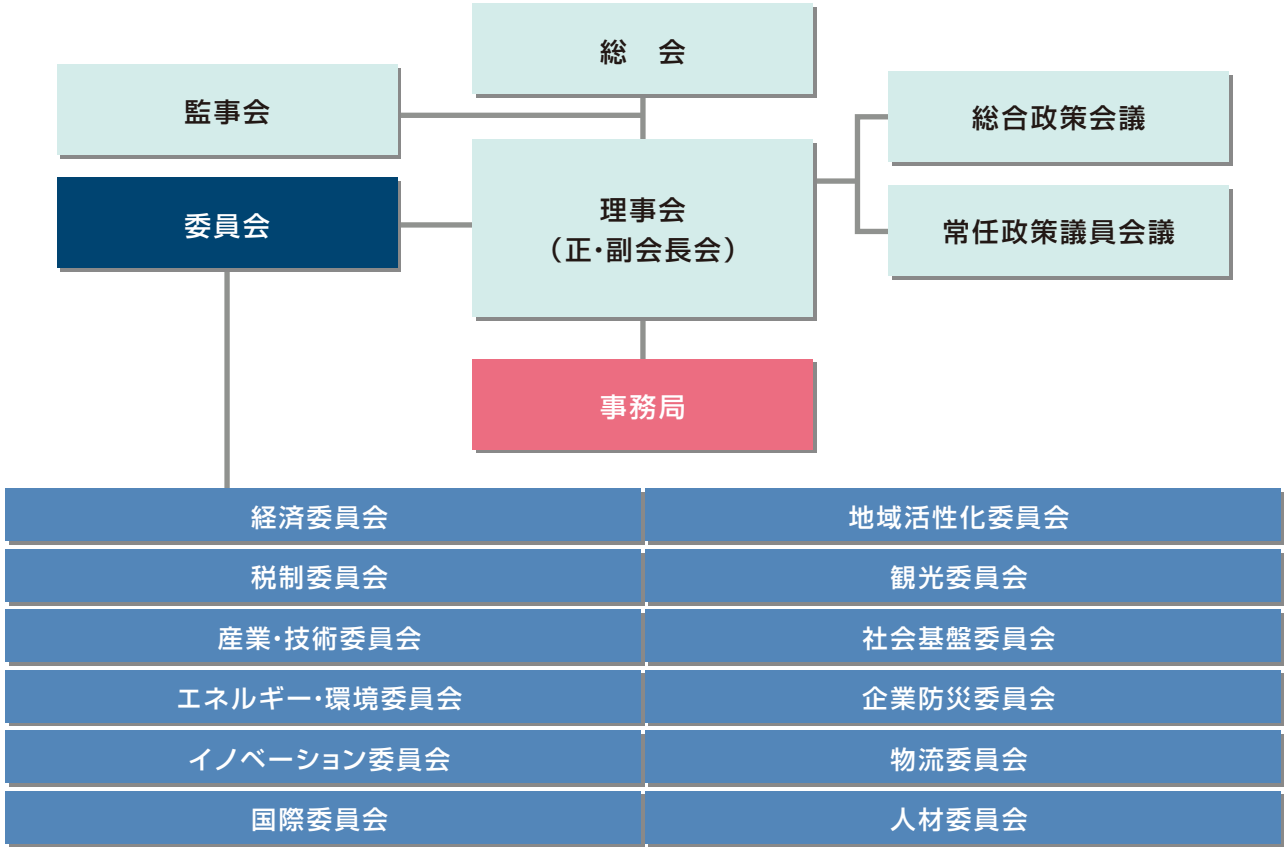
中経連は、未だ戦後の混乱期にあり、将来に対する不透明感が漂う１９５１年、中部経済界が一丸となって課題と対峙し、“中部圏の発展を支える”という強い決意のもと創立されました。

役　　割

中経連は、当地の産学官金や地域間の「声を集め、力をつなぐ」広域経済団体として、プラットフォームの創出や情報連携、地域の声をワンボイスにして届ける政策提言などを通じ、中部圏の持続的な発展と競争力向上に貢献します。



機構図



事務局組織図

	総務・会員サービス部	●総会、理事会、総合政策会議などの開催・運営　●会員サービスの向上 ●総務　●経理　●人事　●広報 など
	企画部	●人材委員会　●地域活性化委員会　●観光委員会　●事業計画の策定 など
	広域連携推進室	●広域産学官連携協議会　●広域政策　●国・行政の動向調査 など
	調査部	●経済委員会　●税制委員会　●地域経済の動向調査 など
	国際部	●国際委員会　●海外経済視察団の派遣 など
価値創造本部	社会実装推進部	●産業・技術委員会　●エネルギー・環境委員会 など
価値創造本部	イノベーション推進部	●イノベーション委員会　●ナゴヤ イノベーターズ ガレージの運営 ●中部圏スタートアップ・エコシステムの形成に向けた活動 など
価値創造本部	産業基盤強化推進部	●社会基盤委員会　●企業防災委員会　●物流委員会 など

役員紹介（役職名は2026年10月5日時点）

会長



柘植 康英
東海旅客鉄道(株)
相談役

副会長



安藤 隆司
名古屋鉄道(株)
代表取締役会長



大島 卓
NGK(株)
代表取締役会長



中田 卓也
ヤマハ(株)
取締役会長



神野 吾郎
(株)サーラ
コーポレーション
代表取締役社長
兼 グループ代表・CEO



安藤 仁
日本トランスシティ(株)
代表取締役社長
社長執行役員



松下 正樹
(株)八十二長野銀行
取締役会長
会長執行役員



青木 武志
イビデン(株)
代表取締役会長



宮崎 洋一
トヨタ自動車(株)
代表取締役副社長



杉浦 雅和
(株)百五銀行
取締役頭取



小川 恭範
セイコーエプソン(株)
取締役会長



柴田 久
(株)しずおか
フィナンシャルグループ
代表取締役社長



寺師 茂樹
(株)豊田自動織機
取締役会長



池田 直樹
(株)十六
フィナンシャルグループ
代表取締役社長
グループCEO



小野寺 雅史
(株)三菱UFJ銀行
取締役副頭取執行役員

理事



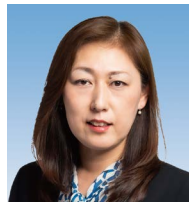
松尾 清一
国立大学法人
東海国立大学機構
機構長



中村 宗一郎
国立大学法人
信州大学
学長



平光 範之
日本製鉄(株)
常務執行役員
名古屋製鉄所長



北川 尚子
東海東京証券(株)
代表取締役社長

監事



大津 正己
川北電気工業(株)
代表取締役社長



杉浦 正樹
中部日本放送(株)
代表取締役会長



鏡味 伸輔
東邦ガス(株)
代表取締役副社長
執行役員



藤田 直樹
(株)みずほ銀行
常務執行役員

事務局役員

平松 岳人
専務理事

梅村 理史
常務理事事務局長

小倉 克幸
常務理事

委員会

本会は12の委員会を設置し、国内外の経済社会などに関する諸課題について調査研究・提言を行うなどのさまざまな活動に取り組んでいます。あわせて、活動を通じた会員相互の交流を図っております。

経済委員会

委員長　小野寺　雅史

■経済政策、社会制度などに関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

地域活性化委員会

委員長　　池田　直樹【岐阜】
共同委員長　松下　正樹【長野】柴田　久【静岡】
　　杉浦　雅和【三重】

■会員・関係機関との連携による地域活性化策の検討
■地域を支える産業の活性化や地域づくりに関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

税制委員会

委員長　杉浦　雅和

■産業育成・振興に資する税・財政などに関する調査研究・提言および要望活動の展開

観光委員会

委員長　安藤　隆司

■観光の振興に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

産業・技術委員会

委員長　宮崎　洋一

■提言書「DXとGXによる製造業のスマート化を起点とした産業の進化と多様化」に基づく活動として、DX伴走支援活動の推進、成功事例／失敗事例や最新技術、規制動向などの情報共有の検討、実装推進における課題解決に向けた産学官連携支援の検討

社会基盤委員会

委員長　宇野　護（東海旅客鉄道（株）　副会長執行役員）

■総合的な交通ネットワークの整備に関する調査研究・提言および要望活動の展開

エネルギー・環境委員会

委員長　鍋田　和宏（中部電力（株）　取締役　副社長執行役員）

■脱炭素、サーキュラーエコノミーをはじめ、エネルギー・環境保全に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

企業防災委員会

委員長　　寺師　茂樹
共同委員長　平光　範之

■防災・減災に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

イノベーション委員会

委員長　　青木　武志
共同委員長　大島　卓

■イノベーション力の強化、新産業の創出に向けた調査研究・提言および要望・推進活動の展開
■イノベーション・スタートアップエコシステムの機能強化

物流委員会

委員長　安藤　仁

■温室効果ガス排出量削減や労働力不足への対応に資する物流のあり方に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

国際委員会

委員長　大島　卓

■産業のグローバル競争力強化に関する調査研究・提言および推進活動の展開
■外国人材の活躍促進、多文化共生社会の実現に関する調査研究・提言および推進活動の展開

人材委員会

委員長　神野　吾郎

■産業・地域を支える人材に関する調査研究・提言および要望・推進活動の展開

（委員長は2026年10月26日時点）

●最近の提言書・レポート

意見書　２０２７年度税制改正に対する意見（２０２６年９月／税制委員会）
レポート　「会員企業の災害対応力に関するスコア診断結果」（２０２６年５月／企業防災委員会）
レポート　「中部圏の建設業界における供給制約の現状と課題」（２０２６年４月／調査部）
緊急提言　「『強靭かつ持続可能』な工業用水道事業に向けて～老朽化対策・耐震化の加速が急務となっている工業用水道事業の課題と提言～」（２０２６年３月／社会基盤委員会）
提言書　「DXとGXによる製造業のスマート化を起点とした産業の進化と多様化」（２０２６年３月／経済委員会、産業・技術委員会）
レポート　「中部圏企業における女性管理職比率の現状と引き上げに向けた課題」（２０２６年３月／調査部）

「中部圏ビジョン 2050」の実現に向けた中期活動指針「ACTION 2030」概要

中経連は、人口減少や地球環境への対応が続く大きな流れの中で、２０５０年頃には日本が「**豊かで持続可能な社会**」を実現していることを目指す「中部圏ビジョン ２０５０」を策定した。ビジョンでは日本の課題と対応の方向性を整理し、中部圏が貢献できること、すなわち中部圏の目指すべき姿として「**産業の進化と多様化**」「**人材・働き方の高度化**」「**魅力と活力ある地域社会の形成**」の3つを掲げている。

あわせて、２０３０年に向けた行動計画として中期活動指針「ＡＣＴＩＯＮ ２０３０」を策定し、中経連が担う4つの役割・活動と、ビジョンで掲げた中部圏の目指すべき姿の実現に資する具体的な取り組みを整理した。今後はこの指針に則り、わが国が「**豊かで持続可能な社会**」となるために、中部圏として貢献できる取り組みを進めていく。



日本・中部圏を取り巻く様々な社会課題

中部圏ビジョン 2050

産業の進化と多様化
～製造業のスマート化と産業による社会システムの変革～

強みである製造業のスマート化を起点にＤＸとＧＸにより産業の進化と多様化を進め、さらには産業による社会システムの変革により新たな価値を創出し社会課題を解決する仕組みを中部圏発で日本・世界に展開することを目指す。

人材・働き方の高度化
～労働力希少社会における多様な人材の輩出・活躍～

「人」を成長の源泉と位置づけ人的資本投資を拡大し、生成ＡＩの普及・発展も前提に多様な人材が活躍できるよう、国内外から人を引き付ける地域として「人材・働き方」においてもわが国、世界の先進地域を目指す。

2050年頃の中部圏が目指す3つの姿

魅力と活力ある地域社会の形成
～世界中からヒト・モノ・カネ・情報を引き付ける地域～

リニア中央新幹線開業、「日本中央回廊」の形成効果を最大限生かし、名古屋と中核都市を中心とした圏内の多極分散、文化・芸術等も含めた魅力ある地域づくりなど、東京一極集中の是正を実現するひな型を示す地域を目指す。

詳細はこちら▼

中期活動指針「ACTION 2030」

産業の進化と多様化への貢献
（1）ＤＸ・ＧＸの推進
（2）イノベーション・スタートアップの振興
（3）非製造業の進化と多様化に向けた取り組み

人材・働き方の高度化への貢献
（1）高度人材やものづくり人材の育成・活躍
（2）労働参加の拡大・多様な人材の活躍促進

DX・GXやAIの活用を前提に中部圏の目指す姿の実現に向けた3つの貢献

魅力と活力ある地域社会の形成への貢献
（1）リニア中央新幹線開業効果・日本中央回廊の形成効果の最大化
（2）交通ネットワークの維持・形成
（3）レジリエンス（防災・減災）の強化
（4）人口減少社会・東京一極集中の是正に相応しい広域行政への転換
（5）魅力ある地域づくり

詳細はこちら▼

中経連の4つの役割と活動

1. プラットフォームの創出・運用
   - 多種多様なエコシステム形成
   - 社会実装 ▶ 産業による社会システム変革
2. 情報の収集・横展開による啓発活動
3. 地域・会員の声をとりまとめた政策提言
4. 広域経済団体として地域をまとめる活動

（2025年6月策定）

2026年度事業計画 概要

詳細はこちら（中経連HP）▶

活動方針

２０２６年度は、中期活動指針『ACTION２０３０』の２年目として、活動を本格的に具体化させる年と位置付けている。『中部圏ビジョン２０５０』で掲げた「豊かで持続可能な社会」の実現に向け、「産業の進化と多様化」「人材・働き方の高度化」「魅力と活力ある地域社会の形成」の３つの“貢献”を活動の柱に据え、ＧＸとＤＸの進行およびＡＩの活用を前提に、「オープンイノベーションの促進」「広域連携の強化」「人材の育成・活躍」の視点とともに、２０２５年度の活動や会員・地域からの意見も踏まえた活動を展開する。

主な事業活動

産業の進化と多様化

DX･GXの推進	■GXを先導する社会実装の推進
	■DXとGXを両輪にした製造業のスマート化の推進 ■デジタルリテラシーの底上げ、サイバーセキュリティ対策の強化 ■次世代モビリティ産業の振興 ■産業の多様化･半導体産業のさらなる振興
イノベーション･スタートアップ振興	■スタートアップ･エコシステム形成活動 ■オープンイノベーションの促進 ■ナゴヤ イノベーターズ ガレージにおける イノベーション創出人材の育成および人材越境の促進
非製造業の進化と 多様化に向けた取り組み	■広域観光の促進 ■非製造業における産業の多様化に向けた取り組み

人材･働き方の高度化

高度人材やものづくり人材の育成･活躍 労働参加の拡大･多様な人材の活躍	■社会環境の変化に対応した働き方や教育の変革につながる活動の推進 ■産学官連携による外国人材の活躍促進

魅力と活力ある地域社会の形成

リニア中央新幹線開業の効果最大化 交通ネットワークの維持･形成	■道路･港湾等の早期整備および日常インフラの強靱化 ■セントレア（中部国際空港）の機能強化･利便性向上 ■持続可能な物流の構築
レジリエンスの強化	■「自助」「共助」「公助」による災害対策の強化
広域行政への転換	■広域産学官連携の強化　■「中部広域リージョン※」の推進
魅力ある地域づくり	■地域の魅力の発掘･創出　■多文化共生社会の実現

分野横断事業･経済団体としてベースとなる活動

■経済政策、社会制度、経済法規などに関する調査研究･提言･要望および推進活動
■地域経済や産業の振興に資する税制改正に関する調査研究･提言および要望活動
■国際化の推進、国際競争力の強化
■行政･他経済団体との連携強化、中部圏で開催される世界的規模のイベントへの協力･支援
■会員サービスの向上･会員拡大に向けた取り組み

※人口減少が進む中、産業や観光、防災などの分野で県域を越えた取り組みの推進を目指す連携の枠組み。富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀の10県、名古屋・静岡・浜松の３市、北陸経済連合会、中経連で構成。2025年11月に発足。

主な活動紹介

産業の進化と多様化への貢献

1 DXとGXの推進

●GXを先導する社会実装の推進

・行政、金融機関などと連携したサプライチェーン全体におけるCO_2削減に向けた伴走支援の仕組み検討。
・次期エネルギー基本計画に対する提言の準備。
・地域活動プラットフォームと連携したGX推進活動の支援。



CO2排出量の算定に関する勉強会の様子

●DXとGXを両輪にした製造業のスマート化の推進

・DXの実装に向けた伴走支援、人材育成に資する支援、AI実装社会における働き方の検討など、提言書「DXとGXによる製造業のスマート化を起点とした産業の進化と多様化」（2026年3月策定）に基づく実装活動の推進。



製造業のスマート化に資する提言書の発表記者会見

●次世代モビリティ産業の振興

・中部先進モビリティ実装プラットフォーム「CAMIP※1」をベースに、地域交通の課題解決に向けた産官学連携による新たなモビリティの創出と移動市場の開拓に資する取り組みの支援。
・COI-NEXT※2マイモビリティー共創拠点※3における取り組みの推進と支援。



第10回CAMIP佐久島ツアー（共催:名古屋大学）。ドローンや自動走行車両を連携させた物流システムを視察

※1　2021年5月に中経連と名古屋大学が共同で設立。産学官連携を通じて次世代モビリティの産業形成を推進する組織。
※2　産学官連携による「共創の場」の形成に向けた支援プログラム。
※3　名古屋大学が中心となり、マイカーを使わない人にも社会への公平なアクセスが可能となる超移動社会の実現を目指す共創の場。

●デジタルリテラシーの底上げ、サイバーセキュリティ対策の強化

・企業のサイバーセキュリティ対策の強化を促す講演会や従業員教育に役立つワークショップの開催。



中経連デジタル技術講演会「産業サイバーセキュリティ2025」のトークセッション

中部圏デジタルのすすめ

詳細はこちら

デジタルを学べる場を発信するWEBサイト

2 半導体産業のさらなる振興

・中部圏における半導体産業のさらなる振興に向けたC²-FRONTS※（シー・フロンツ）との共同検討会を通じた活動の推進。

※ 中部5県の国立大学などで構成する連携組織。

3 イノベーション・スタートアップの振興

・スタートアップ・エコシステムの形成に向けた機運の醸成（Central Japan Startup Ecosystem Consortium※1の活動推進、グローバルイベント「TechGALA Japan※2」の開催など）。

※1　2022年に設立し、中経連、名古屋大学、愛知県、名古屋市（事務局）、浜松市、岐阜県、三重県、静岡県をはじめ327の企業・団体・大学などで構成するコンソーシアム。内閣府による「第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市 グローバル拠点都市（広域都市圏型）」に選定されている。
※2　中日ビル、ナゴヤ イノベーターズ ガレージ、STATION Aiなどを会場に、国内外のスタートアップや事業会社、投資家などを集め、当地とつながるきっかけと位置付けるグローバルビジネスイベント。2024年度より開催。

主な活動紹介

・オープンイノベーションの促進に向け、中部圏の企業と全国各地の有望なスタートアップや大学発の事業化シーズをつなぐ「中部オープンイノベーション・フォーラム」を開催。



2026年1月に初開催された「中部オープンイノベーション・フォーラム」の様子



2回目の開催となった「TechGALA Japan2026」（2026年1月）のオープニング。左から3人目が勝野会長（当時）

・ナゴヤ イノベーターズ ガレージにおけるイノベーション創出人材の育成および人材越境の促進。

ナゴヤ イノベーターズ ガレージ（NIG）とは

2019年7月に名古屋市とともに開設した、
中部圏のイノベーション創出に向けた拠点

所　在　地

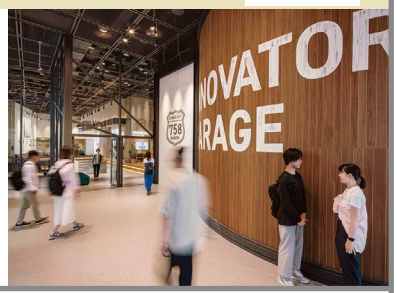
名古屋市中区栄三丁目 18−1
ナディアパーク3・4F

累計来場者数

212,431名（2026年4月末時点）

2025 年度のイベント開催数／参加者数

412 回／延べ参加者数 22,146 名



NIGでは、「**中部圏のイノベーション・ハブ**」として、企業・組織・世代・分野を越えた越境と共創を通じて、新たな価値創出に挑戦する人材やプロジェクトを育んでいる。事業会社やスタートアップ、大学、行政など多様な主体が集い、つながり、学び合う場として、事業会社向けおよびアントレプレナー向けに、「マインド形成」「気づき・発見」「融合・成長」「共創・実践」の4つにステージ分けした多様なプログラムを展開している。



企業の新規事業担当者向けのセミナー「Innovators Academia」の様子

4 広域観光の振興

・中部5県の観光地域づくりに資する先進事例の発信を目的とした視察会や講演会の開催。
・30以上の自治体が参画する「基礎自治体観光ネットワーク」の設立・運営や中部圏で開催される世界的なイベントの開催支援等を通じた広域観光の促進。



愛知県で初開催された「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知・中部北陸」（2025年9月）の様子



伊賀上野城下町における観光まちづくりに資する施策を視察



基礎自治体観光ネットワーク・視察会の様子

人材・働き方の高度化への貢献

1 高度人材やものづくり人材の育成・活躍

各地で深刻化する人手不足を念頭に、労働力の「質の向上」と「量の確保」を軸とした生産性の向上や柔軟な働き方の推進など、多様な人材の活躍を促進。

2 労働参加の拡大・多様な人材の活躍

・産学連携によるリスキリングプログラムの有効性向上を目的に大学と連携。調査した企業のニーズを踏まえた「モデルプログラム」を２０２６年度に構築予定。
・「副業・兼業」の実態把握に向けた会員アンケートを実施。２０２６年度は結果を踏まえたレポートを発信し、会員企業に対し、制度の理解深化や導入促進を図る。
・次世代を担う理系人材の確保に向け、小中学生を対象としたＳＴＥＡＭ教育※1の拡充。
・留学生をはじめとする外国人材の地域定着に資する企業と留学生の相互理解を目的としたイベントの開催など、行政や大学などと連携した取り組みの展開。

※1 科学、技術、工学、芸術・リベラルアーツ、数学（Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics）の5つの分野を総合的に学ぶ教育方法。
※2 産学共創によるキャリア教育の実践策として、会員企業から会員大学へ講師を派遣するプログラム。



シンポジウムでリカレント・リスキリング教育支援の重要性について説明する神野副会長



「キャリア教育共創プログラム※2」の一環として会員企業や中経連の職員が大学で出前授業を実施



「リーダーになるために必要なマネージメント」セミナー・ワークショップ（共催:在日フランス商工会議所）



外国人留学生と企業の交流会

魅力と活力ある地域社会の形成への貢献

1 リニア中央新幹線開業の効果最大化／交通ネットワークの維持・形成／レジリエンスの強化

・中部圏の持続的な発展に向け、社会基盤の整備・強靭化、効率的な物流網の構築、企業における防災対策の推進。

＜直近の活動実績＞

①リニア中央新幹線の開業による「日本中央回廊」の形成効果の最大化に資する道路ネットワーク整備に向けた要望
②提言書「『強靭で持続可能』な工業用水道事業に向けて」の実現に向けた要望



「『強靭かつ持続可能』な上下水道事業」の実現に向けて国へ要望する柘植副会長（当時／写真右）

主な活動紹介

・中部国際空港の機能強化に向け、2027年度を目指す代替滑走路の供用および第二滑走路の早期整備に資する要望活動のほか、航空需要の拡大に資する地域連携活動を推進。
・災害対策の強化に向け、会員の課題解決や具体的な防災・減災対策の促進につなげる「自助」の取り組みに加え、「共助」「公助」の拡大に向けた支援・要請活動を展開。

防災・減災 情報サイト

防災・減災に関連する行政からの情報を中経連HPで随時発信中

2 広域行政への転換

・産学官金による広域課題の共有、課題解決に向けた議論・活動の推進を活動目的とした「中部圏広域産学官連携協議会」および実務者層による「広域産学官協働ワーキンググループ」の開催。
・中部北陸の10県などで構成する新たな広域連携の枠組み「中部広域リージョン」への参画。

3 魅力ある地域づくり

・「なでしこの会」による女性の活躍促進を主軸とした対外向けイベントの開催や、女性の視点を生かした地域活性化に向けた活動の実施。
・中部圏の魅力発信イベントを通じた地域の魅力向上の推進。


「なでしこの会」による大学生とのワークショップ


地域産品の魅力を発信するイベント

4 多文化共生社会の実現

・外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語・学習教室に対する企業の持続的な支援に向けた仕組みづくりなど、産官連携による地域日本語教室支援事業の推進。


地域日本語教室と企業のボランティア人材をつなぐ研修およびマッチングイベント

分野横断事業・経済団体としてベースとなる活動

・経済政策、社会制度、経済法規などに関する調査研究や提言。
・地域経済や産業の振興に資する税制改正に関する調査研究や提言。
・国際化の推進、国際競争力の強化。
　①外国政府機関や経済団体との懇談、経済交流の促進に向けた共催・連携イベントの開催
　②最新の国際情勢をテーマとする講演会の開催
　③海外経済視察団の企画・派遣
・行政との連携・中部圏で開催される世界的規模のイベントへの協力・支援。


インド企業と中部圏企業の経済協力フォーラム（共催:インド大使館）

地域会員懇談会の開催 ～中部圏各地域で意見交換･交流～

本会では、当地会員との意見交換を通じて、中部圏各地域が抱える諸課題に対する会員のニーズを把握し、本会の事業活動に生かすことを目的とした「地域会員懇談会」や「地域交流会」を開催しています。また、懇談会終了後には、関係の深化を目的とした交流会を行っております。

2025年度の開催実績

岐阜地域会員懇談会

出席者	勝野会長、村瀬副会長、青木副会長をはじめ 29 名
主なテーマ	人口流出への対応、人材育成

岐阜･西濃地域交流会

出席者	平松専務理事をはじめ 22 名
主なテーマ	人口減少、産業・技術

三重地域会員懇談会

出席者	勝野会長、安藤（仁）副会長、杉浦副会長をはじめ 34 名
主なテーマ	理系人材の確保、スタートアップ創出、カーボンニュートラル

三重･中南勢地域交流会

出席者	平松専務理事をはじめ 13 名
主なテーマ	観光、産業基盤、企業防災



※肩書きは開催時のもの

長野地域会員懇談会

出席者	勝野会長、松下副会長、小川副会長をはじめ 19 名
主なテーマ	理系人材の確保、人口減少と地域定着

上･下伊那地域会員懇談会

出席者	勝野会長をはじめ 22 名
主なテーマ	人口減少と地域定着、観光振興

愛知地域会員懇談会

出席者	① 勝野会長、安藤（隆）副会長をはじめ 86 名 ② 勝野会長、大島副会長、高原副会長をはじめ 61 名
主なテーマ	人材育成、製造業のスマート化・イノベーション、観光振興

東三河地域会員懇談会

出席者	勝野会長、神野副会長、北川理事をはじめ 24 名
主なテーマ	企業防災、地域間連携、インフラ整備、観光振興

静岡地域会員懇談会

出席者	勝野会長、中田副会長、柴田副会長をはじめ 27 名
主なテーマ	理系人材の確保、建設業はじめとした人手不足、街の魅力再生

講演会・セミナー・会員交流事業・他経済団体との会合などの開催

本会では、時節を捉えたテーマによる講演会のほか、会員相互の交流を目的とする会員忘年会、新春賀詞交歓会、経団連などとの意見交換・交流を目的とする「東海地域経済懇談会」などの開催を通じて、会員同士の交流促進につながる活動を展開しています。

- 定時総会［6月］
- 西日本経済協議会 総会
  （北陸、関西、中国、四国、九州の経済連合会による会合）［秋頃］
- 会員忘年会［12月］
- 新春賀詞交歓会［1月］
- 東海地域経済懇談会（経団連などとの会合）［2月］
- 講演会、セミナー、ネットワーキングイベント［随時］
- 海外経済視察団［年1回］

など

講演会、セミナー、ネットワーキングイベントの開催例

- カーボンニュートラル共創シンポジウム
- デジタル人材育成セミナー
- 講演会、セミナー
  - 人材セミナー「『自分で決めた』経験が育むイノベーション人材」
  - 2026年度税制改正セミナー
  - 企業防災セミナー「大規模地震から学ぶ未来への備え～経営者にこそ聞いてもらいたいこと～」
  - グローバルセミナー「アフリカ市場への玄関口としてのエジプトの魅力」
- 「なでしこの会」イベント
- サイバーセキュリティイベント

上記以外も多数開催



定時総会



会員忘年会



東海地域経済懇談会（経団連などとの共同記者会見の様子）

情報発信活動

本会では、機関誌「中経連」や経済調査レポートなどの発行を通じて、中経連の活動内容を発信しています。また、ホームページやメールマガジンでは、各委員会が開催する会員限定の講演会・セミナー、本会やナゴヤ イノベーターズ ガレージ主催によるイベントのほか、関係機関や外国公館、行政、経済団体からのお知らせなど、中部圏に関するさまざまな情報をタイムリーにお届けしています。

会長コメントの発出

中経連会長の定例記者会見における発言要旨や各種コメントをご紹介。



提言・要望活動の紹介

各委員会がとりまとめた提言・要望の詳細を掲載。

経済調査レポートの発表

中部圏の景気動向や経済指標などを発信。

メールマガジンの配信

会員限定のイベントや耳よりな情報をいち早くお届け。

詳細・登録はこちら ▶

機関誌「中経連」の発行（2ヵ月に1回）



機関誌でしか読むことができない会員代表者の巻頭言やコラム、新入会員紹介、中部圏に関する特集記事を掲載！

中経連のあゆみ

1951年	4月	中部経済連合会創立
1957年	3月	「中部経済5カ年計画」発表（伊勢湾に銑鋼一貫メーカーの誘致を提唱）
1958年	9月	本会の誘致により東海製鐵株式会社（現・日本製鉄株式会社名古屋製鉄所）設立
1963年	4月	「東海3県統合構想」発表
1969年	12月	「大規模国際貨物空港建設構想」発表
1982年	4月	「21世紀の中部ビジョン」発表
1985年	2月	「三遠南信トライアングル構想」発表
1985年	4月	財団法人ファインセラミックスセンター（現・一般財団法人ファインセラミックスセンター）設立
1991年	2月	財団法人国際環境技術移転研究センター（現・公益財団法人国際環境技術移転センター）設立
1991年	5月	社団法人に移行し、運営基盤を強化
1998年	5月	中部国際空港株式会社設立
2001年	11月	「21世紀中部の針路」発表
2001年	11月	中部国際空港利用促進協議会設立
2005年	2月	中部国際空港（セントレア）開港
2005年	3月	2005年日本国際博覧会（愛知万博）開幕
2005年	10月	中部（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀）広域観光推進協議会設立
2007年	4月	ファインセラミックスセンター内にナノ構造研究所設立
2012年	1月	昇龍道プロジェクトがスタート
2012年	4月	一般社団法人に移行
2017年	5月	広域連携DMO・一般社団法人中央日本総合観光機構発足（中部広域観光推進協議会を発展的に改組）
2019年	5月	一般社団法人中部圏イノベーション推進機構設立
2019年	7月	ナゴヤ イノベーターズ ガレージ開設
2021年	6月	創立70周年記念式典開催
2022年	7月	ナゴヤ イノベーターズ ガレージ拡張（Annex）
2025年	2月	「中部圏ビジョン 2050」発表
2025年	6月	中期活動指針『ACTION 2030』発表











入会案内

入会までの流れ・会費

入会条件　中部圏の発展に向けて、本会の活動趣旨にご賛同いただける法人および団体

入会までの流れ

総務・会員サービス部にご連絡 ▶ 本会からの説明 ▶ 入会申込書のご提出 ▶ 審査・承認 ▶ 入会手続き完了

会　費

- 法人会員 —— 180,000円（1口）
- 団体会員 —— 30,000円（1口）

※会費期間は4月から翌年3月までの1年間です。
※初年度は入会月から3月までの会費を月割りで請求させていただきます。

入会のメリット

委員会や懇談会に参加いただけます

委員会や会員懇談会に参加いただくことで、その「声」を政策提言に反映することができます。より良い中部圏をつくるために、共に活動してみませんか？

ネットワークを構築できます

中経連には、中部圏を代表するような企業・学校法人・経済団体のほか、中部圏以外に本社を置き、国内外で活躍する企業、大企業だけでなく中堅・中小企業など、多くの方に入会いただいております。
委員会やその後の交流会をはじめ、会員忘年会や視察会など、ネットワークづくりにつながるイベントを多数用意しております。ぜひ仲間づくりにご活用ください。

さまざまな情報が得られます

中経連は委員会や講演会、シンポジウムを適宜開催しているほか、国、自治体、大学などと連携しております。多方面にわたるさまざまな情報収集にご活用ください。

入会に関するお問い合わせ先

一般社団法人中部経済連合会　総務・会員サービス部
〒461-0008
名古屋市東区武平町5丁目1番地 名古屋栄ビルディング10階
TEL 052〈962〉8091　FAX 052〈962〉8090
E-Mail　info@chukeiren.or.jp

中経連HP「入会案内」

中経連　入会

アクセス

一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION

中経連HP▼　アクセス▼

〒461-0008 名古屋市東区武平町5丁目1番地 名古屋栄ビルディング10階
TEL 052〈962〉8091　FAX 052〈962〉8090


名古屋栄ビルディング外観

● 鉄道でお越しの場合

【名古屋市営地下鉄】東山線・名城線「栄」駅下車
【名古屋鉄道】瀬戸線「栄町」駅下車
地下鉄5番出口より東へ徒歩1分

● お車でお越しの場合

【名古屋高速都心環状線・空港線】「東新町」 出口から西へ3分

※本会は来客用の駐車場を備えておりません。
最寄の有料駐車場［愛知芸術文化センター地下「アートパーク東海駐車場」「中日ビル駐車場」など］をご利用ください。



シンボルマークのコンセプト

・中経連の英語名（Chubu Economic Federation※）の頭文字をモチーフに 2001 年にデザイン。
・左から右へ波打つように「**躍動**」「**飛躍**」していく姿を象徴。
・C、E、F の 3 文字が互いにがっちりと結合した姿は「**交流**」「**連携**」をイメージ。
・デザインの中に同心円を使用し、「**求心力**」を表現。

カラー：くすみのない朱色

好況＝「**はれやかな景気**」をイメージ。

※2017 年に Central Japan Economic Federation に英語名を変更